

平成 27 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月

1. 学校概要

学校名 宮城県大崎市立鹿島台第二小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中高一貫教育
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()

所在地 〒989-4106
宮城県大崎市鹿島台大迫字寺沢40-1

E-mail : osaki_kashimadai2@educ.osaki.miyagi.jp

Website : なし

児童生徒数：男子 15 名 女子 12 名 合計 27 名
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について

1 活動の概要

(1) 環境緑化栽培活動

全校児童が、マリーゴールドの栽培を播種や花壇整備から始め、定植までの一連の活動として学校行事（勤労生産活動9時間）を軸にして行う。

校地内で栽培を続けるほか、学校近くの老人介護施設や地区の公共施設（市役所、病院、駅等）にも、育てた花のプランターを提供し持続可能な地域づくりに係わる。

(2) 生物多様性（絶滅危惧種飼育）活動

環境省レッドデータブックで絶滅危惧種ⅠAに指定されている鹿島台地域の在来種「シナイモツゴ」の里親学校として、総合的な学習の時間（3～4学年、年間30時間）を使って飼育に取り組む。

地域の飼育グループの協力を得て、卵の孵化から稚魚から成魚に至るまでを1年間かけて飼育し、地域内のため池に放流して繁殖を試みる。

2 活動の流れ及び成果と課題

(1) 環境緑化栽培活動

① ねらい

ア 花壇栽培活動を実践することにより、草花を大切に育てていく心を育てる。

イ 活動に当たって、協力や奉仕の心を育てる。

② 活動内容

ア マリーゴールドの播種，定植

③ 活動形態

ア 基本的には、縦割り班で行う。
花壇のデザインは6年生が行う。

イ 作業準備や説明は、環境緑化部（教員）と環境委員会（児童）が行う。常時の水やりは環境委員会やみどりの少年団の活動を活用する。



5月26日 マリーゴールド播種
ポットに種を蒔きます。



7月2日 マリーゴールド定植
整地した花壇に植えます。
プランターにも植えます。

④ その他

ア 校門坂，玄関前のプランターの計画も立てる。

イ 鹿島台大迫サービスセンターへプランターを提供する。

ウ 大崎市民病院鹿島台分院，鹿島台総合支所，鹿島台駅へプランターを提供する。



花開くマリーゴールド



公共施設へ寄贈しました。



⑤ 成果と課題

ア 成果

- ・ 子どもたちは、自分たちで種から植物を育て、花壇一杯に咲く花々の姿を見て、「花と緑の学校」であることへの誇りをもっている。
- ・ 地域の方々の、「花と緑の学校」という見方が定着している。
- ・ 植物の栽培に高い関心を示すようになった。
- ・ 根の生長の様子と種の撒き方（植え方）を関連づけて播種をしたり、水やりの時期ややり方を確認して行ったりと、自分たちで考え判断し取り組むことができるようになってきた。継続した取り組みの成果ととらえられる。
- ・ 縦割り班で活動することにより、上学年が下学年の世話をするなど、思いやりの心を育むことができている。
- ・ 放課後や長期休業中の水やりを自分たちで当番を決めて実施するなど、緑化活動への責任感と意欲が継続している。

イ 課題

- ・ 地域の自然を守ろうとする態度が身につく、継続した取り組みが自主的に行えるよう、更に活動を工夫していく必要がある。
- ・ 活動を通して疑問に思ったことを更に探求する活動や、地域の関係者とのコミュニケーションを深める活動を工夫していく必要がある。

(2) 絶滅危惧種飼育活動

① ねらい

- ア 生命と係わる自然体験をとおして、自然についての驚きや自然との共生の大切さを感じとらせる。
- イ 生活と結びつけながら、科学的なものの見方や問題解決能力を育てる。
- ウ シナイモツゴに興味・関心をもつと共に、育てる活動をとおして身近な環境への関心を高め、それらを守ろうとする気持ちを育てる。

② 3～4学年で身につけさせたい点

- ・ 鹿島台の伝統文化やシナイモツゴについて、自分なりに課題をもつ力。
- ・ いろいろな調べ方がある事を知り、調べる学習を自ら進めようとする力。
- ・ 調べて分かったことを発表する力。
- ・ 鹿島台の伝統文化やシナイモツゴを守ろうとする活動に積極的に取り組む姿勢。

③ 活動内容

- ア 飼育槽への卵の搬入（シナイモツゴ郷の会へ依頼）
- イ シナイモツゴについての勉強会（講師：シナイモツゴ郷の会）
- ウ 常時観察、飼育
- エ シナイモツゴの放流、飼育槽の清掃
- オ 活動のまとめ 総合的な学習の時間の発表会で、活動の発表を行う。



昨年度に卵から飼育し、今年度稚魚となったシナイモツゴを集めます。
放流に向け、引き渡せるように1匹も残さないようにします。

(引き渡し・・・6月10日)



飼育槽をきれいに掃除して、今年度の卵を受け入れる準備をします。



飼育槽に水を入れ、シナイモツゴの成長に必要な水草等を入れ、準備します。飼育槽は校長室前と花壇脇の2カ所があり、約1トンの水が入る大型水槽です。

6月11日 水槽に卵を入れました。

同日、シナイモツゴ郷の会の方にシナイモツゴについての特別授業をしていただきました。



大型の水槽は2
玄関には成魚の水槽

6月25日 シナイモツゴ放流会

鹿島台小学校4年生と合同で、放流会に参加しました。



④ 成果と課題

ア 成果

- ・ 地域の絶滅危惧種の存在を知ると共にその飼育活動を通して、その種を守り育てていこうとする気持ちが育っている。
- ・ 侵略的外来生物の増加による被害を知ると共に、従来の自然種を守ろうという自然保護の活動や保護増殖活動を行っている人々の活動に触れることができた。

イ 課題

- ・ シナイモツゴから活動を広げ、自然保護や自然を愛する態度が身につくような活動を、更に工夫していく必要がある。
- ・ 飼育体験活動を通して疑問に思ったことを更に探求する活動や、地域の関係者とのコミュニケーションを深める活動を工夫していきたい。

(2) 活動時間について

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ ）